



第67回学術集会 WEB開催の実施につきまして

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響を踏まえ、本学術集会の開催につきまして慎重に検討を進めてまいりました。

第67回学術集会では2020年6月4日(木)～6日(土)に神戸では開催を行わず、2020年7月1日～8月末日の期間で皆様のご都合にあわせて参加、学術講演を視聴頂けるよう、WEB(オンライン)開催で実施する予定といたしました。

WEB開催内容については予定しておりました講演等を可能な限り事前に収録し、WEB上で視聴・閲覧できるように調整中となりますので、決定次第第67回ホームページ上でご案内申し上げます。

また、事前予約者、学術集会参加単位や領域講習単位付与等についても、極力会員の皆様の不利益にならない手段を検討しております。

WEBでの視聴方法・視聴期間等詳細、変更事項等については決定次第順次、後日改めて本学会ホームページ、第67回学術集会ホームページ上でご案内いたします。

皆様には大変なご心配とご不便をおかけしておりますことを心よりお詫び申し上げますとともに、ご理解・ご協力の程何卒宜しくお願いいたします。

2020年度支部学術集会 会長挨拶

北海道・東北支部 第8回学術集会 会長挨拶

山蔭 道明

(札幌医科大学医学部麻酔科学講座)

日本麻酔科学会北海道・東北支部第10回学術集会を担当する山蔭道明(札幌医科大学医学部麻酔科学講座)です。北海道と東北は、以前別々に支部学術集会を行ってきましたが、2020年度は支部が一緒になってから記念すべき第10回大会となります。会期は2020年9月5日(土)、会場は札幌市内の札幌医科大学教育研究施設Iとしました。パラリンピック終盤と重なりますが影響はないと考えています。また、会場は新設された学内施設を利用します。

テーマは、「臨床研究しよう！北からの発信」としました。臨床研究法が改定され、またわれわれを取り巻く急性期医療環境は、働き方改革とは無縁に多忙を極めています。そのため、全国学術集会での一般演題は極端に減少し、学術集会の中心となるべき研究発表が縮小化し、専門医講習会が中心になっているのが事実です。しかし、臨床研究の数が減少することはもちろん、その質も悪くなることは、引いては患者さんが受ける医療の質が向上しないことを意味します。今回は、会員の先生方に広く臨床研究を行ってもらうきっかけとなるような講演等を準備し、また話題となっている臨床テーマについての講演も用意しました。学術集会の成功は一般演題の活発な議論があってはじめて成り立つものと考えています。倫理的に問題のない演題は極力採用しようと考えていますので、多くの会員の演題投稿をお待ちしています。また、若手麻酔科医の学会発表の登竜門としても位置づけられる支部学術集会、そのような場としても活用してくれることを期待しています。

一方、参加点や発表点に加え、他の支部と同様の講習会を用意しています。また、例年同様、周術期管理チームセミナーも行いますので興味のあるコ・メディカルの方々にも是非声をおかけください。初秋の北海道・札幌を満喫していただくのもいいかと思えます。他支部の先生でも、「札幌に行って発表してきたい！勉強してきたい！遊んできたい？」という方、大歓迎です！多くのご参加をお待ちしています！

関東甲信越・東京支部 第60回合同学術集会 会長挨拶

磯野 史朗

(千葉大学大学院医学研究院 麻酔科学)

COVID-19感染拡大の影響により、第67回学術集会はWEB開催とはなりましたが、現時点では、60回を迎える関東甲信越・東京支部合同学術集会を、10月24日(土)に千葉市幕張メッセ、国際会議場で開催させていただく予定です。学会のテーマは、『もっと手術室外へ』としました。今までたくさんの麻酔科医に出会いました。誰一人として同じではありませんでした。興味の対象、より深く追求する分野、こだわり、もちろん麻酔管理の方法、それらの違いに驚き、違いをありがたく感じてきました。麻酔科学会は、多様多彩な才能にあふれる素晴らしい仲間の集まりです。この麻酔科医は、手術室では手術治療の安全と質を確保するため日々活躍しています。麻酔科医の能力は、集中治療、救急医療、ペインクリニック、緩和ケアなど手術室外の様々な領域に拡大し、それぞれの分野は麻酔科医も関与しながら現在も発展を続けています。

最近、麻酔科医の手術室外での能力発揮がさらに強く求められていると感じています。医療の安全と質向上、多職種連携による効果的な周術期管理、患者情報の集約・共有化とデータ活用、手術室外の侵襲的検査・治療の安全性・快適性確保、臨床マインドを持った基礎医学研究などなど、手術室外での活躍が期待されています。手術室内で活躍する麻酔科医が不足している現在、『もっと手術室外へ』というテーマは的外れかもしれませんが、手術室で麻酔科医としての能力を身につけ、手術室外でも活躍する麻酔科医が増えれば、麻酔科学領域はさらに幅広く、若い研修医たちにも魅力ある領域になるでしょう。本学会では、『麻酔科医は手術室外でどのような活躍ができるのか?』その可能性を探ってみたいと考えております。COVID-19感染拡大を乗り越え、皆さんとお会いできるのを楽しみにしております。

東海・北陸支部第18回学術集会 会長挨拶

白石 義人
(市立島田市民病院 麻酔科)

この度、2020年9月12日(土)の日程で公益社団法人日本麻酔科学会、東海・北陸支部第18回学術集会をアクトシティ浜松コンgresセンターにおいて開催することとなりました。一般市中病院の麻酔科医である私が会長を拝命したことは身に余る光栄であり、精いっぱい務めさせていただきます。また、支援していただいている浜松医科大学、麻酔蘇生学教室医局の皆様にも感謝申し上げます。

さて、今回はメインテーマを掲げないことといたしました。現代の麻酔科医は、臨床麻酔のみならず集中治療、救急医療、災害医療、ペインクリニックや緩和医療に多くの先生が関わっており、さらには医療安全、感染対策、医学教育、病院経営と活躍の範囲を拡げています。テーマに沿った統一性のある学会とはなりません、各分野で経験された症例や研究の発表の場となれば幸いです。多くの会員の先生方に様々な演題の御発表をお願い申し上げます。2020年は新年から新型コロナウイルスの感染拡大により東京オリンピック・パラリンピックが延期になるなど想定外の事態に陥った年となりました。それらに関連した演題もお待ちしております。

会場は浜松駅から直結しており、新幹線や在来線利用で簡便にお越しいただけます。北陸地方の先生方には遠くなりご不便かもしれませんが、是非ご参加をお願いします。また、距離的に近い東京や関東甲信越の会員の先生方の参加もお待ちしております。

2019年に新しい専門医認定機構による認定・更新をされた先生方には次の認定・更新に必要な共通講習(感染、医療安全)と領域講習を設定したいと考えております。医療安全の演者は弁護士の加藤慎先生、また特別講演として日本医師会副会長で麻酔科出身である今村聡先生を予定しております。

東名高速道路や新東名高速道路のスマートインターチェンジも完成して車でのアクセスも向上しております。学会終了後は足を延ばして浜名湖周辺の観光や館山寺温泉、さらに浜松餃子、うなぎ、すっぽんなどのグルメをお楽しみください。

第66回関西支部学術集会 会長挨拶

佐和 貞治
(京都府立医科大学麻酔科学教室 教授)

2020年度第66回関西支部学術集会を主催させていただきます、京都府立医科大学の佐和です。2020年9月5日(土)に、大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町8-2-6)で開催いたします。

今回テーマを、「安心・安全な医療提供のために」といたしました。麻酔科医は、手術中の麻酔のみならず、その技術ベースに手術前診療や術後疼痛管理、集中治療・救急医療、ペインクリニック・緩和医療など、急性期および慢性期に及ぶ多様で幅広い診療で活躍するようになりました。特に、私自身は麻酔科医のバックグラウンドを基礎にして、近年、病院全体の医療安全管理業務に携わることが多く、内科や外科が、それぞれにおいて循環器、消化器、呼吸器などと特定の領域に特化した専門性を高めることで高度な縦断的な医療を臨床の現場で提供していく中で、総合的に患者を診断し、安心・安全な医療を提供していく中で、横断的に活躍する麻酔科医の役割は、日々増えています。医療事故調査制度や高難度新規医療技術導入などが関わる、本邦における昨今の医療安全制度の変革の中で、主に周術期医療において、患者の安全を第一に考える姿勢を持ち活躍してきた麻酔科医としての感性が、医療施設における医療安全管理にはたいへん重要であると感じています。企画としては、このような観点で、学術集会を計画したいと思っております。また、修練中にある若い麻酔科医にとって、日々の臨床症例を振り返り、安心・安全な医療の提供について考察を深める機会としての学術集会をたいへん貴重であると考えています。学術集会の詳細については、今後、皆さまのご意見をもとに、これからの検討となりますが、皆さまにとって有意義な学会にしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお申し上げます。

中国・四国支部第57回学術集会 会長挨拶

白神 豪太郎
(香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科)

日本麻酔科学会中国・四国支部第57回学術集会を2020年9月5日(土)に「サンポート高松」で開催いたします。テーマを「能書必用好筆(能書は必ず好筆を用ふ)」とさせていただきます。巷間「弘法筆を選ばず」と言われておりますが、そうではなく、大師は筆を選びます。弘法大師空海は「良工先利其刀、能書必用好筆。刻鏤随用改刀、臨池逐字変筆。(名工はまずその刀を研ぎ、能書家は必ず良い筆を用いる。刻む物によって刀をかえ、字によって筆をかえる。)」と述べています(遍照發揮性靈集)。われわれ麻酔科医も、その用途に合わせて必ず良いモノ(薬剤、機器、システムなど)を選ばねばならない、ということを表したつもりです。

現在、学術集会に向けて鋭意準備を進めております。堤保夫先生(広島大学)に招請講演(教授就任記念講演)を、招待講演「麻酔の自動化とAI(仮題)」を古谷栄光先生(兵庫県立大学工学部)をお願いいたしました。また、専門医共通講習(倫理)として松村由美先生(京大病院医療安全管理室)に「臨床倫理入門(仮題)」、専門医共通講習(医療安全)として小田祐資先生(すみよし小田法律事務所)に「医師が最低知っておくべき法律知識～医療事故を中心に～」、麻酔科領域講習として中條浩介先生(香川大学)に「慢性痛患者の麻酔」をお願いしております。一般演題、優秀演題セッション、周術期管理チームセミナー、共催セミナー等につきましても例年同様に企画しております。特に、一般演題は学術集会の要でありますので、会員皆様多数のご応募をお願い申し上げます。

JR高松駅から徒歩1分の「サンポート高松」からは瀬戸の海、空、島が一望できます。TAKAMATSUは「2020年に訪れるべき世界の旅行先10選」に日本で唯一選ばれた地でございます(Booking.com)。会員の皆様には、何卒お誘いあわせの上、ご来高いただき、活発なご討論をお願いいたしますと存じます。また、TAKAMATSUならびに弘法大師ゆかりの地、弘法大師ゆかりの「さぬきうどん」をお楽しみ頂ければと存じます。

九州麻酔科学会第58回大会 会長挨拶

原 哲也
(長崎大学大学院麻酔集中治療医学)

九州麻酔科学会第58回大会を2020年9月12日(土)に長崎ブリックホールで開催させていただきます。この度の開催に際し、ご指導・ご支援をいただいております会員および関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

今回は特別なテーマは設けておりませんが、今大会が麻酔科医の専門性と多様性を考える大会となることを望んでおります。近年のゲノム医療や超高齢化社会に代表されるような医療技術や社会環境の変化は、麻酔科医にも思考・行動の変化を求めています。麻酔科医の専門性を深く追求しながらも、次々に現れる新しい医療に対応できるだけの柔軟性が必要となってまいります。また、先進的な医療の中で麻酔科医の持つ高い専門性を活かすことも、麻酔科医の重要な役割となってまいります。先進医療に関する話題に加え、周術期管理、集中治療、ペインクリニック、緩和ケア、救急医療といった麻酔科関連領域の話題を広く集め、麻酔科医の専門性と多様性について討論できる機会となるように準備を進めてまいります。

今大会では、特別講演、専門医共通講習、麻酔科領域講習、周術期管理チームセミナーに加え、優秀演題セッションとポスター発表による一般演題セッションを予定しております。会員の皆様には、最優秀演題を目指してご応募いただけると幸いです。

長崎市には世界遺産であるキリシタン教会群をはじめ多くの観光名所がございます。また、独特の食文化や美味しい魚料理も長崎の魅力のひとつでございます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2020年度支部学術集会 開催日程

日程	学術集会名	会長	所属	会場
2020年9月5日(土)	北海道・東北支部第10回学術集会	山藤 道明	札幌医科大学医学部麻酔科学講座	札幌医科大学 教育研究棟1
2020年10月24日(土)	関東甲信越・東京支部第60回合同学術集会	磯野 史朗	千葉大学大学院 医学研究院麻酔科学	幕張メッセ国際会議場
2020年9月12日(土)	東海・北陸第18回学術集会	白石 義人	市立島田市民病院麻酔科	アクトシティ浜松コンgresセンター
2020年9月5日(土)	第66回関西支部学術集会	佐和 貞治	京都府立医科大学麻酔科学教室	大阪国際交流センター
2020年9月5日(土)	中国・四国支部第57回学術集会	白神 豪太郎	香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科	サンポートホール高松
2020年9月12日(土)	九州麻酔科学会第58回大会	原 哲也	長崎大学大学院麻酔集中治療医学	長崎ブリックホール

〈注意事項〉

●演題登録について

演題登録期間：

2020年5月1日(金)正午～2020年6月15日(月)正午(全支部共通)

主な注意事項は以下の通りです。

- ・演題登録には、倫理的事項に関する同意及び利益相反の申告が必須です。詳細は支部学術集会ホームページをご確認ください。
- ・公正な査読を実現するため、抄録本文やタイトルには施設名を入れず、「当施設」といった記載としてください。
- ・応募締め切り後は、いかなる変更も一切認められておりません。
- ・類似内容での複数演題の応募は認められておりません。十分にご注意ください。

- ・支部学術集会一般演題の発表単位は日本麻酔科学会の会員に付与されます。
- ・現在会員ではないが、発表単位が必要な方は演題投稿前に入会手続きが必要です。5月までに入会をお済ませください。2020年5月入会の申込み期日は5月10日(日)です。
- 一般演題投稿方法・注意事項の詳細については、支部学術集会ホームページを確認してください。

●会員カード再発行について

会員カードをお持ちではなく、支部学術集会開催までに再発行を希望される場合、7月中旬までに再発行手続きをお願いします。

▶ 2020年度は選挙年度です

2020年度は公益社団法人日本麻酔科学会選挙年度となり、定款並びに選挙管理細則に基づき、2021年度～2022年度の公益社団法人日本麻酔科学会代議員、理事を選出するための選挙を行います。選挙名簿は2020年4月1日の会員登録情報で作成され、選挙人名簿(選挙区)の記載事項に誤りがあるときは異議の申請ができます。

選挙スケジュール、各種届出やその方法・詳細については、会員専用ページ内の選挙に関するニュースをご確認ください。

▶ 日本麻酔科学会が行う特定行為パッケージ研修

2020年2月26日付で周術期特定行為研修指定研修機関に認定されました。

日本麻酔科学会では、高度急性期医療における他職種との協働がスムーズに実践できることを目的として、「日本麻酔科学会特定行為パッケージ研修」を実施します。毎年2回の協力施設申請、出願申請を受付けております。(今後のお申込みは、2020年6月1日より開始いたします。)詳細は学会ホームページ内、「医療関係者の皆様」⇒「周術期特定行為研修制度」をご確認ください。



麻酔機器・器具故障 不具合情報について

安全委員会委員長 廣田 和美

本学会は、医療の安全性向上のため、麻酔関連機器の故障情報の収集と迅速な警告発信を行っております。2020年1月から3月までに、HPに掲載された注意情報は下記の通りです。

情報は以下のページに随時掲載しておりますので、会員の皆様におかれましては常時ご確認いただきますようお願い申し上げます。また、同様の事象が発生しましたら学会お問い合わせ(<https://anesth.or.jp/users/contact>)よりご連絡下さい。

<故障情報掲載ページ>

https://anesth.or.jp/users/person/safety_initiatives/heads_up

日本麻酔科学会トップページ⇒医療関係者の皆様

⇒麻酔機器・器具故障情報、薬剤情報、注意喚起

「アセリオ静注液1000mg」と 「アナペイン注2mg/ml 100mL」に関する注意喚起

2019年9月、アセトアミノフェン静注液(アセリオ静注液1000mg)を点滴静脈内投与するところを、誤ってロピバカイン塩酸塩水和物注射液(アナペイン注2mg/ml 100mL)を点滴静脈内投与し、局所麻酔薬中毒を生じた事例が会員より報告されました。幸いにも適切な対処により患者さんは回復されました。

ロピバカイン塩酸塩水和物注射液(アナペイン注2mg/ml 100mL)バックには「禁静注」と注意喚起がされています。くれぐれも間違えて投与することのないように今一度確認・周知頂きますようお願い致します。



公衆衛生大学院での2年間を修了して

—京都大学社会健康医学系専攻医療疫学分野への国内留学—

横浜市立大学附属病院麻酔科 長嶺 祐介

「京都大学社会健康医学系専攻という公衆衛生大学院に行ってみないか？」新たな目標が生まれた瞬間でした。本麻酔科の後藤隆久教授より声をかけられたのは2017年の4月のことでした。京都大学社会健康医学系大学院医療疫学分野の福原俊一教授がお越しになり、本院の臨床研究講演会で講演をされた後のことです。「臨床研究には興味があるのに、どのように始めればよいか分からない」まさに自分もそんな一人でした。縁あって福原先生の主宰する医療疫学教室への国内留学(修士課程2年コース)に2018年から行かせていただくことになりました。

京都大学社会健康医学系専攻は本邦で初めて創立された公衆衛生大学院(School of Public Health)です。公衆衛生大学院では、医学と社会をつなぐ様々な課題に対して学際的なアプローチで、教育・研究が行われています。本課程には臨床研究者を育成するコース(通称:MCRコース)があり、私も本コースを受講しました。MCRコースでは、臨床研究を専門とする教員の指導のもと、熱意に溢れた様々な学生が集います。本コースのハイライトは、「プロトコルマネジメント」という講義です。各教室から集う教員の前で、自らの研究計画を発表し、学生と教員全員で討議するという『熱い』講義です。講義準備は非常に大変でしたが、得られるものはとても大きいものでした。医療疫学教室では大規模コホート研究データを用いた修士課題研究にも取り組ませていただきました。この2年間は私の麻酔科人生に最も大きな影響を与えていただいた時間になりました。

「研究は医療者を元気にする」福原先生がしばしばお話されるお言葉です。日々の臨床を実直に行う中で湧いてくる疑問を臨床研究の「問い」として研究をすすめることは、患者さんの利益につながるのももちろんですが、我々医療者の生涯に渡る原動力となります。この国内留学の経験を生かして、若手医局員の教育とともに研究を進めていきたいと思っています。

この場をお借りして、貴重な経験を積ませていただいた福原先生、後藤先生、そして私が不在なときに支えてくださった医局員の皆様に心より感謝申し上げます。

迷える学生さんたち

高知大学医学部麻酔科学集中治療医学講座 重松 ロカテッリ 万里恵

入局して以来5年間、2週間毎に入れ替わり立ち替わり、新しい5年生のクリニカルクラークシップの学生さんの指導に当たっている。一人の学生さんの指導医となり、症例を決めて麻酔全身管理と一緒に学ぶ。一日中私にくっつき、モニターの見方、麻酔薬や循環作動薬のしくみ、気管挿管や換気などの手技の見学など一通りのことを一緒におさらいする。最終日近くなると、「何か質問ある？」という私の問いに対し、その学生さんが女子学生さんの場合、ほぼ毎回同じ質問が来る。「先生は結婚していますか？子どもはいますか？」結婚していて2人子どもがいると分かったら、待っていましたとばかりに矢継ぎ早にさらに次の質問が来るのである。「いつ結婚しましたか？」「いつ子どもを産みましたか？」そして「いつ結婚したらいいですか？」「いつ子どもを産んだらいいですか？」「むしろだれと結婚したらいいですか？」？

麻酔科にクラークシップで回ってくるのが、産婦人科実習の後ということも相まって、高齢出産のリスクやキャリア形成にさらに不安が高まっているようで、彼女たちの表情も真剣である。自分自身の経験を伝え、毎日パートナーと職場の先輩後輩に支えられて何とか両立出来たり出来なかったり・・・そんな状況を正直に話し、彼女たちの不安や思いに耳を傾ける。そして「先生、麻酔科ってどうですか？」という質問が来ればしめたもの。彼女たちの心が傾いた瞬間、麻酔科の魅力について語る。麻酔管理や集中治療の勉強のみでなく、人生のちょっと先輩として、迷える学生さんたちの心に少しでも寄り添えたらと思う。そしてあわよくば、麻酔集中治療を志す後輩が、後に続いていくればいいなと願うのである。

緩和医療、はや10年

長崎大学病院 麻酔科 石井 浩二

麻酔科医として医師のキャリアを開始して18年目、そのうち緩和医療を専門とする医師となりはや10年が経過しようとしている。10年ひと昔というから麻酔科医としての自分はもはや時代遅れの医師で、そう思うと少し寂しい気もする。一方、現在の専門としている緩和医療もこの10年で大きく変化した。2006年に成立したががん対策基本法によるがん診療連携拠点病院への緩和ケア医師の配置、日本で未承認であったオピオイドの相次ぐ承認など急速にがん性疼痛緩和における手段が増加していった。使用できるオピオイドや鎮痛補助薬が増加したことで緩和医療における除痛目的のブロック治療は急速に縮小されていった。さらに治療の進歩によるがん患者の予後延長、治療の場の外来への移行などががん治療においても大きく変化したことにより緩和医療は終末期医療のみならず、がんと診断された時からがん治療中、終末期と患者さんの必要に応じて病気の進行の程度に関わらず提供されるようになった。その中で放射線治療やブロック治療が再度見直されている。放射線治療は2018年に改訂されたWHOのガイドラインでも強く推奨されている。オピオイドでがん性疼痛はコントロール可能であっても眠気などの副作用のため自動車運転や他の日常生活が制限されることがあるからだ。当院でも放射線治療は積極的に行っていただいている。また、この数年間で内臓神経ブロックや脊髄も膜下鎮痛、仙骨硬膜外エタノール注入などブロック治療を行える体制を整えてきた。今後がん診療連携拠点病院で緩和医療を行う医師として治療中の患者さんのADL、QOLを保つサポートを行う体制を整えていきたいと考えている。

麻酔科医はもともと他科より診療依頼を受け、患者・主治医双方の希望に沿う医療を行うことができ、患者を客観的・総合的に見ることもできる診療科である。その上、ブロック治療を行うのに垣根が低いという緩和医療に向いている診療科であると思う。より良い緩和医療を提供するためにも麻酔科出身の緩和ケア医がますます増加することを期待している。

ヤマメの棲息南限

宮崎大学麻酔生体管理学 越田 智広

昼食の時に、医局にたまたま居合わせ、教授に本原稿を依頼されてしまった。たまたまなので、不意を突かれた感は否めない。「趣味の事でも書けば。」と言われたので、思いつくままに、趣味である魚釣り、魚の事について書く事にした。

宮崎は、巨大魚の宝庫で、釣りをされる方ならご存知だろうが、マルカ(アカメ)、クイチ(オオニベ)、アラ(クエ) [()]内は、標準和名)など、いずれも1メートルを超える巨魚が、河口や岸から釣れる。しかしこれらは、テレビや雑誌、インターネットなどで良く紹介されているので、ここでは、最近私が興味をもっている事について書いてみたい。それは、「ヤマメの棲息南限はどこか？」ということである。

私は、溪流釣りが好きなのだが、ヤマメは、ご存じのようにサケ科の溪流魚で、清冽な低温の水にしか棲めない魚である。分布域は、カムチャツカ半島、千島列島、カラフト、ユーラシア大陸の日本海沿岸、日本では、北海道から九州南部とされている。しかしその南限が、宮崎県なのか鹿児島県なのか定かではない。文献によると宮崎県南部を流れる酒谷川とするものと鹿児島県北部を流れる肝属川とするものが見つかった。宮崎では、ヤマメをエノハと言って地元では昔から親しんでいるが、寒冷地を好むヤマメが、南国宮崎に棲息しているとは、何とも興味をそそられる。

実は、ヤマメの近縁種は、現在も台湾に生息している。サラマオマス(タイワンマス)とって台湾の2000台湾元紙幣のモチーフにも採用されている。この点から考えると、ヤマメの仲間は、氷河期には現在の九州本土に相当する地だけではなく、琉球弧(現在の沖縄県の島々)から、南は少なくとも台湾に相当する地まで生息していたのではなからうか。それが、氷河期が終わり、海水面が上昇し、また火山活動のような地誌的な要因が加わって、現在の生息域が定着していったのだろう。

近年は、放流や管理釣り場から逃げ出した魚がいるため、仮にヤマメを釣っても、魚体を見ただけでは、そのヤマメが本当に自然に分布していたものか人工的に飼育されたものかを区別することは難しい。学問的に判断するのであれば、18s rRNAなどの遺伝子配列でhomologyを検索しなくてはならないだろう。数千年単位で形成される生物の分布からすれば、現在の分布域も所詮、瞬時のものであり、その南限を見極めたいこと自体あまり意味の無いことかもしれない。しかし「ヤマメの棲息南限は、どこか？」は、今の私にとってやはり気になるのである。

ヤマメの塩焼き、みそ焼きはいずれもたまらぬ美味である。焼酎のうまみを一層引き立ててくれる。ヤマメの謎に思いを馳せつつ盃を重ねる、至福の時である。

2020年度 第59回麻酔科専門医 認定試験開催予定について

教育委員会・認定審査委員会

2020年度第59回麻酔科専門医試験の開催予定をお知らせいたします。

1. 試験日

筆記試験：2020年10月25日(日)

口頭試験・実技試験：

2020年10月30日(金)～11月1日(日)

2. 筆記試験会場

2会場で開催(東京会場・神戸会場)

●TOC有明(東京会場)

●神戸ポートピアホテル(神戸会場)

3. 口頭試験・実技試験会場

1会場(神戸会場)で開催

●神戸ポートピアホテル

*日程・会場に変更がございましたら、学会HPにてお知らせいたします。

【申請受付期間】

2020年5月1日(金)～2020年6月30日(火)

申請方法など詳細は、学会ホームページ「認定申請について」ページでご案内しておりますのでご確認ください。

2020年度 第10回定時社員総会の 開催について

2020年度 第10回定時社員総会は延期となりました。
開催日時・会場・開催方式は未定です。
詳細につきましては学会HPをご確認ください。

<開催概要>

議案

- 第1号議案 2019年度庶務報告に関する件
- 第2号議案 2019年度事業報告に関する件
- 第3号議案 2019年度会計報告に関する件
- 第4号議案 定款施行規則等の制定・改廃に関する件
- 第5号議案 2020年度社員等に関する件
- 第6号議案 その他

出席者

2019年度2020年度代議員

※総会終了後に、第5号議案で承認された名誉会員の推戴式、ならびに学会賞授与式を執り行います。

※詳細につきましては、会員専用ページでご確認ください。

※招集通知を出席対象の先生にお送りしております。内容ご確認の上、郵送でのご返信をお願いいたします。

医師賠償責任保険の送付、ならびに 医師賠償保険適用開始時期と入会時期について

弊会会員向けの医師賠償責任保険に関する更新のご案内書類については、**2020年1月末頃**に会員の皆様へ送付しておりますので、各自お手続きをお願いいたします。

※2020年4月以降に入会した場合、保険は入会後の適用となりますので4月1日にさかのぼっての適用はできません。(団体割引に関する保険会社規定により)
上記以外のその他保険に関する詳細事項・お問い合わせにつきましては、ご案内しております各保険会社にお問い合わせください。

年次報告書WEB申請方法について

2020年度の年次報告申請はJSAPIMSを用いて、申請をWEBページから行っていただく予定になります。

現在、ホームページに暫定的な申請フローを掲載していますが、詳細について検討中です。決定した案内につきましては年次報告申請開始時点にはホームページに掲載させていただきますので、その際にホームページのご案内をご覧くださいませ。



年会費について

2020年度年会費のお支払いが可能となりました。支払期日は2020年9月30日です。また、2019年度年会費をまだお支払いでない方は、至急お支払ください。会員専用ページ「マイページ」内、「プロフィール」、左側メニューボタン「年会費支払照会」より画面に従ってお手続き下さい。

領収書について

会員専用ページ「マイページ」内、「プロフィール」、左側メニューボタン「領収書発行」より画面に従って出力下さい。(1回のみ出力可能です)
※年会費以外の領収書発行についても同ページより発行いただけます。

会員カード発行について

会員カードは、年次学術集会(毎年5月もしくは6月)・支部学術集会(毎年9月)に間に合うように発行しております。会員カードは年次学術集会、支部学術集会での参加登録(チェックイン・会期中に1回必須)、単位を取得される講習の入退室に必要です。紛失された方は会員専用ページ「マイページ」内「プロフィール」、左側メニューボタン「カード再発行申請」からお手続きを行ってください。第67回学術集会に間に合う会員カード申込期日は2020年4

月12日(日)でした。期日までの再発行申込者及び入会者には4月下旬～5月上旬に発送いたします。期日以降の再発行申込者及び入会者には8月下旬に発送する予定でございます。ご入用の方は、2020年7月20日(月)までにお申込みください。

学術集会で麻酔科領域講習、共通講習受講のため、仮会員カードを臨時で発行される場合には、会場内に設けております、仮カード発行ブースで有料発行のうえ、ご参加ください。会期終了後に返却をお願いいたします。

※会期中に返却された場合、再発行には、再度発行代金をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

入会について—ご周知下さい—

毎月10日までにWEB申込及び必要書類の提出が完了している方を審査し、同月15日付けで入会承認可否のメールをいたします。承認された方はメールに記載されたURLから、期日までにクレジット決済で年会費を入金して頂くことになり、入金完了時点で会員となります。

※一旦退会後、再度会員になる際も前述の手続きで入会申込を行って下さい。直近の退会時点で未納年会費がある場合、こちらと合わせて入会年度の年会費をお支払い頂き、再入会となります。ただし、認定資格は再入会しても復活しません。取得し直していただく必要があります。

※学術集会の会員として単位付与される一般演題応募、事前予約や専門医機構関連講習申込みやそのシステム利用、参加登録は、申し込み時点や参加時点で入会の手続き(申請～支払い)を完了された方に限ります。尚、第67回学術集会当日の入会申込みはできませんのでご注意ください。学術集会での単位反映をご希望の方は、2020年5月10日までに新入会の申請をお願いいたします。

編集後記

NEWS LETTER 2020年第2号をお届けいたします。新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響を踏まえ、第67回学術集会は、2020年6月4日(木)から6日(土)に神戸では開催を行わず、WEB(オンライン)開催での実施となりました。変更事項等については順次ホームページに掲載される予定です。

今回のNEWS LETTERでは、周術期特定行為研修についてや麻酔機器・器具故障不具合情報、2020年度第59回麻酔科専門医認定試験開催予定のお知らせがあります。

また、2020年度支部学術集会の開催日程および各支部の学術集会会長の挨拶を掲載しています。その文章からは、参加すれば必ず勉強になる、趣向を凝らした内容であることが伝わってきます。

北から南からのコーナーは、各方面でご活躍の先生方からの近況報告です。「なるほど」「わかる、わかる」と、思いながら楽しく読んでいただけます。そのほか、日本麻酔科学会入会の際の注意点も掲載しておりますので、新しく麻酔科医として入会される先生にもお伝え願います。

新型コロナウイルス(COVID-19)感染が世界中に拡大し、パンデミックとみなされました。

木々や花は春に向かって準備を始めています。子供も大人も春を体感できるように、一刻も早い感染の終息を願うばかりです。

(広報委員会 委員 渋谷 博美)

公益社団法人 日本麻酔科学会

NEWS LETTER

2020 Vol.28 no.2

https://anesth.or.jp

2020年4月20日発行

©Japanese Society of Anesthesiologists

本誌掲載記事の著作権は全て(公社)日本麻酔科学会に帰属いたします。無断複製・転載を禁じます。

◆編集・発行 (公社)日本麻酔科学会 広報委員会

[広報委員長] 川口 昌彦

[広報副委員長] 水野 圭一郎

[広報委員] 讃岐 美智義、渋谷 博美、鈴木 昭広、角倉 弘行

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番2号

神戸キメックセンタービル3階

TEL:(代表)078-306-5945

(認定関連問合せ専用ダイヤル)078-335-6078

FAX:078-306-5946

◆制作 株式会社杏林舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL:03-3910-4311 FAX:03-3949-0230